

「軍縮・不拡散教育グローバル・フォーラム」
野田総理大臣ビデオメッセージ

日本国内閣総理大臣の野田佳彦です。

「軍縮・不拡散教育グローバル・フォーラム」のために、世界各地からいらっしゃった皆様を心から歓迎いたします。

67年前の夏、ここ長崎の地に投下された原子爆弾は、7万人とも言われる尊い命を一瞬にして奪いました。一命を取りとめた方々にも、筆舌に尽くしがたい苦しみと癒すことのできない傷跡を残しました。

核兵器の^{さんか}惨禍を体験した我が国は、唯一の戦争被爆国として、この惨禍の^{じっそう}実相を国境と世代を超えて語り継ぐ責務を人類全体に対して負っています。昨年、我が国が国連総会に提出した核軍縮決議が圧倒的な賛成多数で採択されました。我が国は、「核兵器のない世界」の実現に向け、志を同じくする国々とも連携しながら、核軍縮・不拡散分野の国際的な議論を主導しています。

人類は、核兵器の惨禍を決して忘れてはなりません。そして、この人類史に刻まれた悲劇を二度と繰り返してはなりません。

軍縮・不拡散教育は、悲惨な体験を「記憶」し、核軍縮・不拡散という「行動」への情熱を引き継いでいくために、欠かすことのできない社会基盤です。既に、公的部門だけではなく、研究・教育機関、NGO、メディアなど幅広い主体が熱心に取り組んでいます。被爆体験を世界に伝える「非核特使」の方々の活動は、そうした取組の一例です。

被爆から67年を経て、体験を肉声で語っていただける方々の多くが既に亡くなり、御存命の方々もかなりのお歳となりました。「体験の記憶」と「行動への情熱」を引き継いでいく取組は、歴史的にも重要な局面にあります。

今般のフォーラムは、軍縮・不拡散教育に携わる世界中の方々の一層の連携を図るための場です。

本日から二日間にわたる議論の様子は、世界中にリアルタイムで発信されます。大量破壊兵器のない中東地域を作ろうとする構想を題材にして、軍縮・不拡散の問題を多面的に考えていくためのセッションも設けています。

このフォーラムが更なる発展を遂げ、軍縮・不拡散教育に関する議論のネットワークが国境や世代を超えて着実に広がっていくよう、日本政府としても後押しをしてまいります。

皆さんが、人類の未来に対して負っている崇高な責任に思いを致しながら、活発な議論を行っていただけることを強く期待して、私から皆さんへのメッセージといたします。